

愛犬とつくる楽しい毎日

DOG World

ドッグ・ワールド

10

10月
2005年
580円



喜久みち子の愛犬レパリタイル
フューチャー・ドッグ

ゼッターランド ヨーロッパ
& ハンガリー

イザという時のお役立ち
愛犬の法律トラブル
Q&A

知っておきたい役割とリスク
全身麻酔って
キケンなもの?

ちっちゃなおしゃれ番犬
ヨークシャー・テリア

なんでうなるの? 噛みつくの?

ココロがわかれば 反抗態度は 絶対よくなる

旅の
便利グッズ
プレゼント!

2通りの
犬連れ旅ガイド
車で山中湖
&
電車で
伊豆高原

兄妹チワワが遊ぶ バリアフリーの家

誰もがかなえない、家族の一員である愛犬との快適な生活。それには、楽しく暮らせる家づくりが欠かせない。夢を現実にした、犬とステキに暮らしている小池邸。生活のメインスペースである2階はバリアフリーに。また、引き戸を多用し、戸を開け放てば2階のチワワの巡回コースになる。建て替えを機に、より犬と暮らしやすく工夫した家を紹介。



かぼすは階段に寄りかかり、大理石の床に体をつけて涼しげな表情。那村後ゆずばんも真似するようになった

段差は約10cm。大工さん平作りのスロープを作ってケージへ入る



鹿児島県
小池陽香さん(38歳)

かぼす

027-0277-7777/03/4歳/♀

ゆずばん

027-0277-7777/03/4歳/♀



出窓の下には ケージを納めるための スペースを確保

欄の向こう側が安楽時の犬スペース。とても広いし、半作りの棚はコンパクトに折りたたむことができる

○ 狭くあるリビングの半分が棚で仕切られ、その向こうでは、愛くるしい二頭のチワワが、訪問者に思い思いの反応を見せている。

ちよっと及び腰の姿勢で、ワシワンと優しく吠えているのがオスのかほす。じつと甘えるようなまなざしを向け、いかにも楽しんでほしいように持っているのがメスのゆずばん。

チワワの標準的なサイズのゆずばんと比べると、かほすは体長約四キロと、前のビッグサイズ……にもかかわらず、ゆずばんは度胸も愛慕もたっぷりで、堂々としており、かほすは人見知りで、ちよっと臆病らしい。

「おつきいでしよう、かほす」(笑)。散歩しているとき、たまに「パピヨンですか?」って聞かれます。(笑)。

でも、体は大きいのに、ビビりなんですよ。お客様がみえるとき、最初のうちはずーっとこんなふうに興奮した状態が続いてしまつて……。

この棚は、ふだんはたまたまであるのですが、来客時だけ、かほすの隔離場所を作るために使つてます。

と、小池さん。蛇腹式の棚は、この

家の設計を手がけた事務所の方が作りしてくれたもので、カーテンやじゅうたんの色合いにコーディネートした緑のベンキが施されている。

かほすが落ち着きを取り戻すと、棚は折りたたまれ、二面はいつものようにお気に入り場所へと向かう。

「完璧置は、窓辺に置いたベッドの中で、二面で体を寄せ合つて、外を眺めるのが好きみたいです。

以前は、リビングの窓はすべて眺望だったもので、こんなふうに外を眺めることができませんでしたから」

油塚は、昨年建て替えるおこない、一二月に現在の住まいの形が完成した。一階が駐車スペース、二階がリビングとキッチン、三階が湯香さんと二匹の部屋という構成は以前と同じだが、犬たちの行動空間である二階は、大きく様変わりした。

窓のある南側にはデッキを造り、それまであった長い観葉をすべて大きな掃き出し窓に変えた。さらに西側の出窓の下には、ケージをすっぽり納めるためのスペースを確保。また、玄関を含め、二階全体にはほとんど窓のないバリアフリーの構造を導入した。

「建て替える前は、デッキのある部分ですべて遮断でしたから、実際の面積的には広かったはずなんですけど、今のほうが広々として開放的な感じですよ。

以前なら、外を眺めるには、犬たちはソファの背に横ひもあなくてはいけなかったもので、そこから眺つてもそこともままあったんですよ。かほすはそれで一度目を脱臼したことがありました。今はソファは置いていません。犬も人も床に座ったままで、外が眺められるようになりましたから」

ベランダには電動のシェードが設置されており、日光が強い時は窓に直接日が当たらないよう調整できるため、窓辺にある二頭のベッドは、明るいけれど暑くはない、いつでも快適な環境をキープできている。

北側にも小さな窓があるため、風が通り抜け、換気もばっちりです。快癒さはさらにアップ。ちなみに、壁にはエゴカマットという調湿効果に優れた素材を使用しているため、室内に芳香剤がなくても、嫌なにおいがこもることも少ない。

リビングと廊下の間にある2ヶ所の引き戸を開け放せば、廊下コースになる。風通しもよい。窓は和室にも洋室にも合う。調湿効果のあるエゴカマット





落ち葉の多い色合いの高級木の竹まき。ゆずぼんはデッキから裏をチェックするのが好き



窓際は犬たちのお気に入りスペースのひとつ。日差しにまぶしそうに目を細めながら外を見ている



玄関も敷センテの設置がある程度で、室内はほぼリアフリー。おそろいのリードを付けて散歩する

「大抵のことをご考えて特別にお願いをした」といえば、ケージを納めるスペースを造ってもらったくらい。トイレシートを置く、犬たちのものを全部まとめて置くようにしていただく、と。あとは、余分なものを取り去って、ただただ暮らしやすくしてほしいとお願いをしただけです」

そのリクエストを受けた設計士は、どうすれば犬も人も快適に暮らせる家が造れるのか、知人の動物のプロに相談。実際に小池邸に足を運んでもらい、かぼすとゆずぼんの性格や行動スタイルを見てもらったうえで、方向性を決めていった。そして、まずは人に快適な家であることが、二頭にとっても最適であること結論づけた。

「二頭の生活スペースであるリビングも、とくにすべりにくい床材を選んだわけではなく、部屋の中央にはあえて畳も敷いた（床にはめ込む造りなので段差はない。また、へりがなく、固く編まれた畳を使っているため、爪が引っかかることもない）。しかし、小型犬二頭にはなんの支障もきたしておらず、むしろソファを置かないフラットな暮らしで安全性が増したともいえる。

ケージスペースは、いろいろと迷った

ところもあり、ケージが少しだけはみ出してしまったが、大工さんが段差部分のフロップを作ってくれたため、事なきを得た。

「でも、二頭が寝るのは実際のベッドの中、ケージを使うのはご飯の時だけです。かぼすはご飯を食べるのがものすごく遅くて、うかうかしているとき、ゆずぼんの分まで食べちゃう。ゆずぼんはケージの中でご飯を食べさせることにしています。」

あつという間にたいらげちゃったかぼすを尻目に、ゆずぼんはこれ見よがしに、ゆっくりゆっくり食べてます。意味深なんですよ、このコ（笑）」

何

はともあれ、ケージもムダにはならず、有効活用されることになった。めでたし。

「いちばん心配したのはウッドデッキです。足がはさまらないように木材と木材の間隔をせばめてもらいましたし、外を見ていてうっかき下に落ちたものいように、小さなゆずぼんの頭のサイズを測って、柵の木材の間隔を決めてもらいました。だから、安心して出すことができます。」

ただ、かぼすは怖がって、なかなか出てこない（笑）。すみれから下が見えるのが嫌みたいですよ

るのが嫌みたいですよ。ゆずぼんに付られてデッキに出たが最後、固まっちゃって動かなくなる（笑）」

掃き出し窓とリビングの扉を開け放せば、かぼすもゆずぼんも、ワンフロアをめいっぱい生かして、動き回ることが出来る。デッキや庭下に段差がないため、猛ダッシュで追いかけてこなくても、敷居に引っこかかってけがをする心配もない。むしろ、かぼすはあまりデッキには出ないのだけれど……」

「今回、この家で初めて夏を過ごしましたが、かぼすがひとつ発見をしたんですよ。それは、廊下に寝ると、ひんやりして気持ちいいってこと」

廊下には、タトママイフィロという大理石が敷かれている。

「リビングの引き戸を開け放っていた時、かぼすが、たまたまゴロンと横たわった場所が敷居のそばで、頭が廊下にはみ出したんです。そしたら、ん？ 気持ちがいいぞ、という感じで、少しづつ少しずつずり上がって行って寝た。最後は体が廊下に。」

以来、夏の間はずーっと廊下で涼を取ってましたね。体が大きいせいでしょうか、かぼすはゆずぼんよりも暑がりなんですよ」

足や頭が はさまらないように ウッドデッキの床と 柵の間隔を決めた



ROOM DATA



